

第70回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会の展望

(資料提供：神奈川県陸上競技協会)

※帰省地参加資格・・・現在の居住地以外の市町村から出場できる制度。
その場合、県内高等学校卒業時の居住市町村に限る。

- ・今年で70回目となる「かながわ駅伝」は、真鶴町・湯河原町・清川村の3町村が合同編成した1チームを加えたことで、初めて全市町村が参加することとなった。
- ・また、70回の記念大会という事もあるため、例年以上に多くの実力ある「帰省地参加選手」の出場もあり、たいへん盛り上がりのある大会となることが期待される。
- ・優勝争いは、横浜、川崎、相模原の3政令市を中心に、熾烈なトップ争いが展開されると思われる。
- ・昨年主力選手の欠場などの影響もあり五連覇を逃した横浜市が、本年は名将加藤智明監督のもと、中学生・一般・女子の全てにバランスのとれた選手を揃え、王座奪還を果たすか。神奈川大学のエースでもある我那覇、帰省地参加選手澤野（日立物流）を軸に、昨年実力を出し切れなかった宮尾（専修大）や、短い区間にはスピード豊かな高校生を配し、女子区間にもリンズィー（金沢高）を起用すれば、全く隙のない布陣が組める。特に、6・7区の区間が鍵を握るであろう。
- ・一方連覇を狙う川崎市は、昨年同様、2区矢澤（日清食品グループ）で勢いに乗り、5区区間賞を獲得した今季好調の橋本（法政二高）や大学生がピークを合わせられれば好敵手を上回ることも可能だ。女子区間で横浜にいかにかい食いつけるかがポイントとなるだろう。
- ・今年の相模原市は手強いチームである。主将を務める高谷（JR東日本）は、全国都道府県対抗駅伝でも快走したように、今年の相模原チームを象徴するかのような気迫の走りを示すであろう。また、若々しい小町（日本体育大）や辻田（国士舘大）の大学生と、高校生の二井（藤沢翔陵高）も大学生に劣らぬ快走が期待できる。女子区間も、過去の区間賞獲得の今泉（八王子高）が好調であり、今年の首位争いは三つ巴の激しい展開で、目まぐるしくトップが入れ替わる可能性を秘めた駅伝絵巻が繰り広げられそうである。
- ・また、上位入賞を目指して、茅ヶ崎、小田原、横須賀、平塚、藤沢の各市が激しく争うだろう。
- ・その一番手は、茅ヶ崎市だろう。小室（鎌倉学園高）、鈴木（藤沢翔陵高）の高校生の実力は十分で、スピードでは一般選手と遜色はなく、しっかりと継いでくるだろう。そして、石原（新電元工業）と川崎（G.F.R）、二人の帰省地参加選手が、昨年同様に6・7区でガッチリ締めくくる。
- ・昨年準優勝の藤沢市は、大幅なメンバーの入れ替えで臨んできた。実績のあるプレス工業の2名が重要区間を担うだろう。特に山田（プレス工業）は、全日本実業団駅伝にも出場し、その実力は折紙つきである。若い大学生が上位集団から抜け出すことが課題となる。
- ・小田原市は、3年前の準優勝時の主力選手が、本年は当時ほど好調とはいえないが、中学生区間が首位争いに絡めそうなので、ベテランの調整力で一気に波に乗せて行きたいところである。大学生の鈴木（東京農業大）も成長株で好走が期待できるだろう。

- ・横須賀市は、主将の小泉（日本体育大）と秋澤（神奈川大）の両大学生が上位進出の鍵を握っている。中学生区間や女子区間もしっかりとした選手が出走するので、大学生が上手くタスキをつなげば、昨年同様に上位を脅かすだろう。
- ・平塚市は、チーム力で勝負をし、ベテランの伊澤（平塚市役所）と矢後（平塚市役所）、大学生の横井（山梨学院大）、佐野（流通経済大）、高校生の岩佐（大磯高）らが堅実な走りをするだろう。

町村の部について

- ・町村の部では、昨年初優勝を飾った二宮町が本年も最有力。昨年2区で快走した田中（サンベルクス）は、昨年ほどの好調さは見られないものの、中学生区間3位だった小早川（藤沢翔陵高）も順調に成長しており、小坂太我（藤沢翔陵高）や楠原（秦野高）ら高校生も好調で、手堅くタスキを継ぐだろう。
- ・次いで、箱根町がメンバー的には充実している。ベテラン石井（平塚市役所）を筆頭に、高校時代に全国高校駅伝を走った大泉（日本体育大）、関東大会で好走した越阪部（東海大）が大学に進学し、順調に力を伸ばしていれば、二宮町を凌ぐチームとなるだろう。チームを挙げて、悲願の初優勝に向かってのチームワークは抜群である。
- ・三番手には大井町が挙げられる。チームエースの岩本（足柄上郡陸協）はコンスタントに31分前後で10kmを走っており、インターハイ800mで2年連続入賞した高校生の小川（相洋高）も短い区間ではすばらしい実力を発揮しており、ベテランの長谷川（足柄上郡陸協）、増川（足柄上郡陸協）も手堅い走りが持ち味の選手で、女子区間を担当する丹羽（中央大）も区間上位の常連である。
- ・葉山町もそつのない走りをすれば上位に食い込むだろう。絶対的なエースの川村（プレス工業）がチームを引っ張り、3人の鎌倉学園高校生がいかに踏ん張れるかに掛かっている。女子区間は内田（三浦学苑高）が昨年同様に好走するだろう。
- ・2町1村の合同チームは、久々に駅伝を走るメンバーが多く見受けられるので、勝ち負けより、参加できた喜びを味わいながら走ってもらいたい。

各区間の見所について

第1区 (3.1km・男子区間[中学生])

中学生が担うこの区間は、全国都道府県対抗駅伝に参加した脇坂（横浜）、内田（横須賀）、鈴木（小田原）、スピードのある飯澤（伊勢原）らが加わり、躍動感あふれるトップ争いとなるだろう。積極的な走りを展開し、今年の区間最高記録の更新を期待したい。

第2区 (10.0km・男子区間[高校生以上])

駅伝の流れを決める重要区間。前半に約 1.7km の軽い登り坂はあるものの、後半は 2.5km の下り坂を思い切り駆け下る 10.0km であり、各チームともエース級の投入により目まぐるしい順位変動や豪快なゴボウ抜きが見られる区間である。矢澤（川崎）、高谷（相模原）が昨年同様区間 1、2 位を占めるのか。また、松枝（南足柄）が中位から 10 人以上のゴボウ抜きを見せ、トップ争いに加わってくるのか。横浜は稲毛を投入して逃げ切っていくのか。とにかく見応えのあるレースを繰り広げるだろう。

第3区 (8.2km・男子区間[高校生以上])

ほぼ平坦なこの区間は、走り易いコースであるため、スピードのある選手や新人を投入するチームも多い。横浜は宮尾を投入し、先手必勝を狙ってくるだろう。川崎は橋本を投入できれば、十分に対抗できるだろうが、昨年同様 5 区の区間賞狙いと逃げられる危険性が高い。相模原は、二井辺りを投入し、前区間からの流れを女子区間に継げたいだろう。特に 6.5km からの残り 1.7km の踏ん張り（向い風が急に強くなることが多い）が大切である。

第4区 (2.7km・女子区間[中学生以上])

女子が担当する区間で距離は 2.7km と短い、記録では 1～2 分と、男子以上に大きな差がつく区間である。

ここでは、大和の佐藤が持ち前のスピードを生かせば区間賞獲得の第一候補。対抗は横浜市のリンズィー。また、昨年区間賞の今泉（相模原）や長濱（逗子）らも期待される。町村対抗のエースとして丹羽（大井）も今年は好調であり、大きく順位を引き上げそうだ。

第5区 (7.2km・男子区間[高校生以上])

男子が担う区間では最も短い 7.2km の区間であり、勾配が急な所は無いが、ほぼずっと上り坂が続く区間で、キック力のある高校生が果敢に挑戦し、昨年は橋本（川崎）が区間賞を獲得した。

本年もそうした傾向は変わらないだろうが、トップを争う 3 市は、少しでも余裕を持つために意外な選手を投入してくる可能性がある。

第6区 (10.7km・男子区間[高校生以上])

最長区間であり、且つアップダウンの大きなこの区間の成否が過去にも勝敗を分けてきた。各チームはエースを投入し、特に2つ目の真名倉坂をしっかり登り切れば好位置を保つことになる。横浜は我那覇、相模原は小町、川崎は濱野だろう。また、小泉（横須賀）、山田（藤沢）、樽木（小田原）、石原（茅ヶ崎）、大川（大磯）等も実力を発揮して、区間賞に絡むようなチームのための激走を期待したい。とにかく、本県各市町村のエースのつば競り合いは、見応えがあるだろう。

第7区 (10.0km・男子区間[高校生以上])

2区と同様に 10.0km であるが、全体としては下り勾配の多い走り易い区間である。横浜は澤野で逃げ切りを図り、相模原は辻田で追い上げを狙っていよう。一昨年の鈴木（平塚）のような、ズバ抜けた選手は、見当たらないようだが、6区までの順位を死守するため、各チームとも死力を尽くした踏ん張りを期待したい。